広告　企画・制作　LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

曲げ木の技術で吉野杉の美しさと品質の良さを表現

平井 健太　奈良／木工作家

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

本プロジェクトは2016年、プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意と匠研究所)らをサポートメンバーに発足。以来、全国の若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への指定やロックフェラー家主催のチャリティイベントへの出品、上海での国際的な展示会への出品など、目覚ましい活躍を見せている。3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター(コラボレーター)が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏(建築家)、廣川玉枝氏(SOMARTA　クリエイティブディレクター)、森永邦彦氏(ANREALAGE/代表取締役社長・デザイナー)、辰野しずか氏(クリエイティブディレクター/プロダクトデザイナー)が登壇し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。奈良県選出の匠、木工作家の平井健太さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

1月24日、プレゼンテーションにて

スーパーバイザー
小山　薫堂氏

1964年6月23日　熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め！電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。

プレゼンテーションの様子

バイヤーに商品の説明を行う平井さん

習得した技術を吉野杉に生かす

川上村に移住して3年目。大学で建築を学び、卒業後は大手ゼネコンで設計の仕事に就くも日に日に大きな歯車の1つと感じるようになり自分にしかできないことをやりたいという思いが強くなった。会社の仕事は机上で図面を引くだけ。実際に物を作るのは大工や職人の仕事だった。全工程を1人でやりたかった。1人で家を建てることはできるが趣味やライフワークになってしまい仕事にはできない。そこで家具作りを思い立った。建築と似た技術を使うし何より自分で設計しデザインを考え制作し販売まで1人でできる。

会社を辞め岐阜県飛騨高山市の木工技術学校で2年間毎日ひたすら木と向き合った。アイルランドの家具工房から学校に求人の情報が届き、それを見た学校スタッフの推薦もあり決断。卒業後、アイルランドに渡り同工房独自の技術「フリーフォームラミネーション」を習得した。フリーフォームラミネーションとは薄い単板を接着剤で何層も重ね積層し圧着した木材を曲げる技術だ。

3年後に帰国し総務省の地域活性化事業「地域おこし協力隊」に応募。自身の技術と吉野杉のテイストが合いそうだと考え川上村を選択した。吉野杉は吉野地域で生産される日本有数の人工杉で植樹や育成、伐採、製材まですべての工程を地元で担う。主に建築材として使われているが木造家屋の減少で需要が激減している。

一般的に家具は硬くて重い広葉樹が適し、針葉樹は向いていないといわれる。現在の日本において、広葉樹は輸入しているが、一方で針葉樹は余剰で価値が下落している状況だ。平井さんは奈良県の銘木「吉野杉」の美しさと品質の良さに着目。その価値を見直し光を当てたいと考えた。吉野杉の薄板は既製品として比較的入手し易く、節がないため曲げ木に適しているという利点もあった。

完成プロダクト「muji」

吉野杉の美しさをデザインに取り入れる

今回のプロジェクトに向けて制作した作品は吉野杉を用いた二人掛けの椅子。座面からそのまま背板へとつながる緩やかな流線型は、ひじ掛けや体をゆったりと支える背につながる。無節の4メートル材を使うことで吉野杉の「品質」を感じられる製品になった。もともと建築材として使われる木材なので全長4メートル以上ある。それを製材所で薄くスライスし貼り合わせてから裁断する。吉野杉は4メートルあってもフシがない。その「無節」と長い年月をかけて育成した結果できる「詰んだ年輪」という性質をデザインに取り入れた。

エリア・コンサルティングでは、生駒氏から「吉野杉は『まっすぐである』というのが一番の特徴だが、飴細工のようにいろんな形状にできるのが面白い。今のままでも十分すばらしいが、もう少しサイズを短くしてもいいかもしれない。また、椅子の足に使っている鉄の印象がシャープなので、背もたれを支える部分もシャープな形にしたほうがいいのでは」というアドバイスを受け、巧みに取り入れながら椅子を仕上げていった。

幾度も試作を重ねて迎えた1月24日のプレゼンテーションにおいて、平井さんは2018年度同プロジェクトの全国から選ばれた匠50人の中からサポートメンバーの川又俊明氏が選ぶ「注目の匠」に挙げられた。川又氏は「曲げ木の独自技術で新しい形状を生み出している。ディティールを詰めれば更に良くなる可能性を秘めている」と評した。

平井さんは家具を制作し販売することで吉野杉の「六次産業化」の実現を目指している。平井さんは「私が使う木の量は微々たるものだが作品を通して吉野杉のすばらしさを表現できれば」と話した。

エリア・コンサルティングにて

平井　健太
奈良／木工作家

昭和59年静岡県生まれ。平成22年飛騨高山で木工技術を習得後、アイルランドへ渡り「joseph walsh studio」に3年間勤務。帰国後、奈良県川上村に移住し同29年「studio Jig」を開業。アイルランドで身に着けた曲げ木の技術「フリーフォームラミネーション」を用いて家具を中心に吉野産木材の可能性を日々探っている。国際家具デザインフェア旭川2017 ブロンズリーフ賞受賞。ウッドデザイン賞2017 優秀賞(林野庁長官賞)受賞。

平井さんの制作風景

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT